

＝本との出会いを赤ちゃんのときから＝

赤ちゃんにとって

絵本は「感じる」体験



一人ひとりが、大切にかけがえのない存在である赤ちゃん。

すべての赤ちゃんが、生まれた時から大きな愛情に包まれて、幸せを感じながら生きることができたら、こんなに素晴らしいことはありません。親をはじめ、たくさんの人が赤ちゃんと一緒に時間を過ごし、愛情に満ちた「ことば」を語りかけることで、赤ちゃんは自分がとても大切にされ、愛されていることを知り喜びを感じます。

赤ちゃんの幸せは、そんな時間の中で芽生え、広がり、育まれていくものです。それは大人にとっても、心安らぐ子育ての時間になります。

絵本は、このような時を、ごく自然につくりだすことができます。

《絵本を読むときには…》

- ① 絵本を読むときは、改まった声や口調になる必要はありません。ごく自然に普段の会話と同じように読んであげましょう。
- ② できるだけゆっくり、無理のない声で、素直に飾り気なく読んであげましょう。
- ③ ページをめくりながら、話しかけてもらうこと。絵とともにその声があると、とてもうれしく赤ちゃんの心が安らぎます。



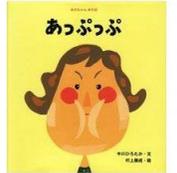
子育てコンシェルジュおすすめの絵本

あっぷっぷ なかがわひろたか作（ひかりのくに）

「にらめっこしましょ あっぷっぷ」で表情豊かな動物やお母さんとにらめっこ。

そして「ぷははは わらっちゃった」で大笑い。

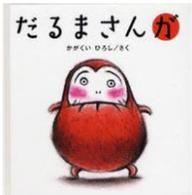
小さいお子さんに大変人気のある絵本です



だるまさんシリーズ かがくいひろし作（フロンズ新社）

シリーズで3冊出版されていますが、今にもこちらに飛び出してくるような、だるまさんの動きに注目！

そして、どれも声に出して読んで楽しい、見て楽しい大人気の絵本です。

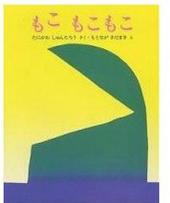


もこもこもこ 谷川俊太郎作（文研出版）

出てくる言葉は「しーん」「もこもこ」「によき

によき」の擬音のみですが、読むたびにクラクラ

笑い出す子どもたち。親子で一緒に楽しみましょう



くっついた 三浦太郎作（こぐま社）

「きんぎょさんときんぎょさんがくっついた」

で始まる繰り返しが楽しい絵本です。

最後のページのおやこの表情に幸せを感じます。



どんどこももんちゃんシリーズ

とよたかずひこ/作 (童心社)

「どんどこ どんどこ・・・」のリズムも楽しく子どもたちはかわいいももんちゃんが大好きです。ちょっぴり疲れたママも優しい笑顔になれますよ。



いないいないばあ 松谷みよ子/文 瀬川康男/絵 (童心社)

たくさんの動物たちと「いないいないばあ！」次はだれかな・・・小さい頃に読んでもらったパパ、ママも多いことでしょう。



どうぶつのおかあさん 小森厚/文 藪内正幸/絵 (福音館書店)

お母さん猫は子どもをくわえて運びます。お母さんサルは子どもをお腹にしがみつかせて運びます。赤ちゃんは いつもお母さんと一緒にです。



じゃあじゃあ びりびり まついのりこ/作・絵 (偕成社)

はっきりした絵とリズムカルなことばで、あかちゃんの想像性を育みます。いろんな擬音は心地よい刺激を与えてくれます。



がたんごとんがたんごとん 安西水丸/作 (福音館書店)

がたんごとん、と汽車がやってきます。がたんごとん、と次の駅に行くとコップとスプーンが「のせてくださーい」繰り返しが楽しい絵本です。



まる、しかく、さんかく フルーナ/作 (福音館書店)

丸いもの、ボールにお皿に時計。四角いものはハンカチに本。三角は？身の回りのものから見つけてみましょう。



くだもの 平山和子/作 (福音館書店)

子どもたちの大好きなくだものが、みずみずしく描かれています。「さあ、どうぞ」とっても美味しそうなので、子どもでなくても思わず手が伸びてしまいそうです。



しろくまちゃんのほっとけき わかやまけん/作 (こぐま社)

ぽたん、どろどろ、ぴちぴち、ぷっぷっやけたかな？まーだまだ・・・おいしい匂いが漂ってくるような絵本です。

